

黒沢治水ダム

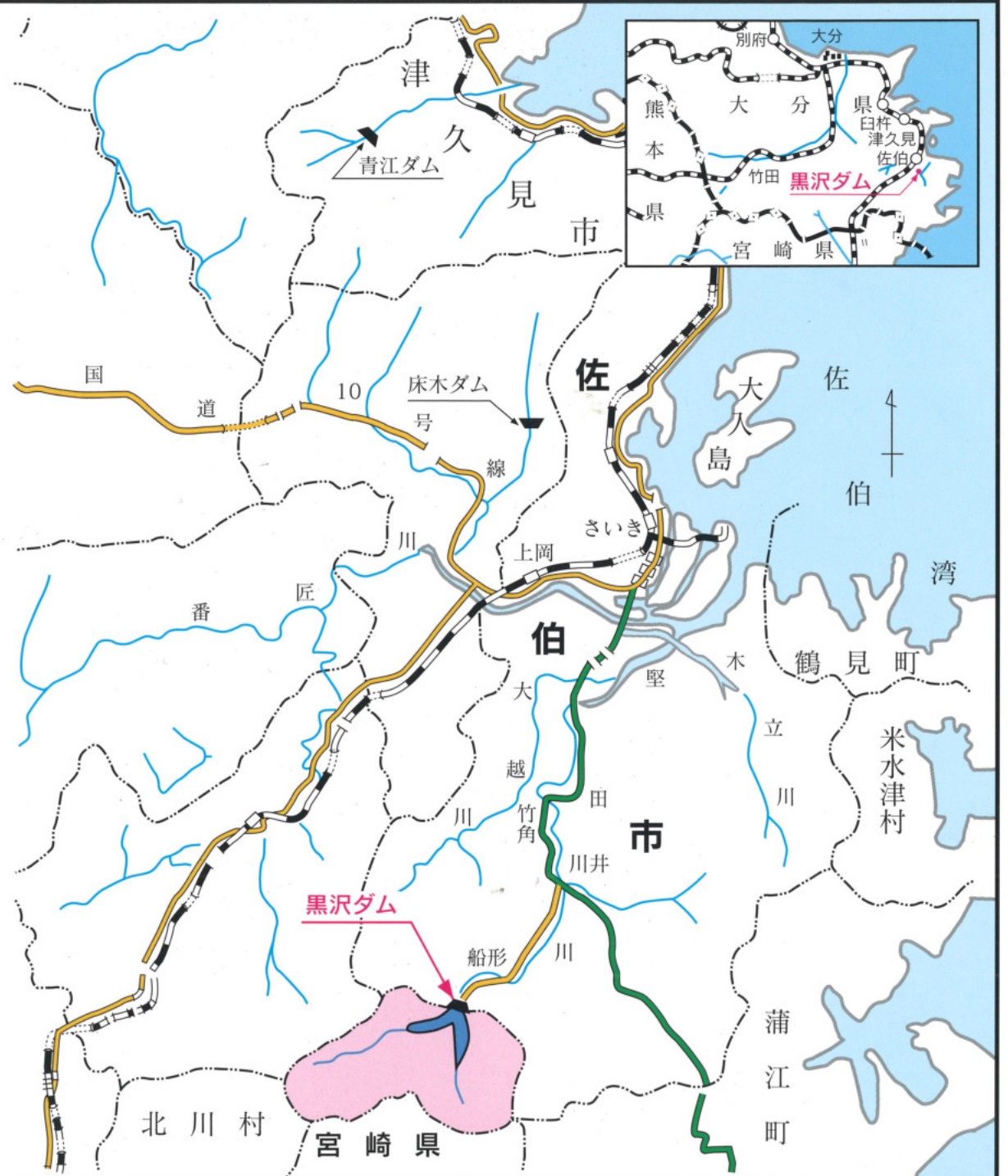
大分県佐伯土木事務所 佐伯市長島町1-2-1 Tel(0972) 22-3171
大分県黒沢ダム管理事務所 佐伯市青山字黒沢 Tel(0972) 26-1111



上流左岸からダムを望む



ダム下流からダム正面を望む



計画一般平面図



堅田橋水位局



警報局施設(石打警報局)





黒沢ダム



基準地点(大越川合流点)



ダム管理事務所遠方操作設備

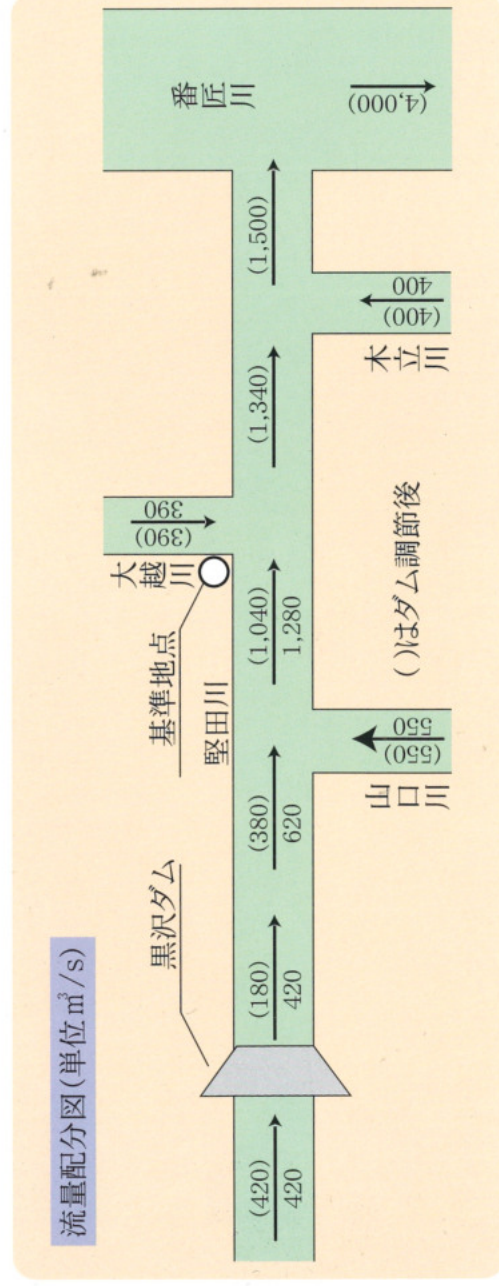
凡 例	
集水区域	
氾濫区域	
雨量局	
水位局	
警報局	

事業の概要

① 事業の概要

黒沢ダムは、番匠川水系堅田川の佐伯市大字青山に治水ダムとして昭和43年に計画され、昭和45年に着工し、昭和50年度に総事業費23億3千万円で完成しました。有効貯水量3,730,000 m³で洪水調節および不特定用水の確保を目的としています。

1) 洪水調節



ロ) 不特定用水の確保
堅田川沿岸の620haの耕地に対する不特定用水の補給を行います。

② 事業の必要性

本川流域においては昭和18年9月に日雨量693mmを記録した台風による既往最大の災害を受け、ほとんどが毎年こわたり、大被害を出しています。また流域一帯の水田用水は河川の表流水に依存していますが、本川中流部は伏流水が多く、渇水年には少なからず被害を生じており、昭和42年には被害率約23%1億円に近い被害にのぼっています。

このため、かねてから地域住民の治水に対する要望は強く、この抜本的な対策として上流に治水ダムを築造して洪水を調節し、併せてかんがい補給を行って民生の安定をはかるものです。

③ 流域の概要

堅田川は、その源を場照山(標高660.7m)に発し、途中山口川、波越川を合流し、佐伯市南部を北上しながらさらに大越川、木立川を合流して番匠川に注ぐ流域面積88.4km²、幹線流路延長15kmの河川です。

ダム上流部の林相は高温多雨の気象条件にめぐまれ、ダムサイトにおける流況も年間を通じて安定しています。中流部は伏流しているところがあり、渇水期は表流水が少ないが、下流部になると再び表流水が豊富となり、流況は良好となります。

ダム計画の諸元

ダム

ダム地点	大分県佐伯市大字青山
型式	重力式コンクリートダム
堤頂高	EL=112.50m
基礎岩盤高	EL= 65.00m
堤頂高	47.500m
堤頂長	203.500m
堤頂巾	4.000m
堤敷巾	39.575m
堤体積	124,000 m ³
洪水放流設備	クレストラジアルゲート 11.5×8.5×1門 3.2×2.0×2門
利水取水設備	放流管(オリフェイス) 放水管バルブ(ホロージェットバルブ) 取水管ゲート φ500×1基 φ800×3基

貯水池

集水面積	18.2km ²	EL=86.700m
湛水面積	0.25km ²	4,100,000 m ³
洪水時満水位	EL=111.000m	3,730,000 m ³
常時満水位	EL= 95.200m	3,030,000 m ³
推砂量	370,000 m ³	700,000 m ³

洪水防除区域の資産

(全体計画策定当時)

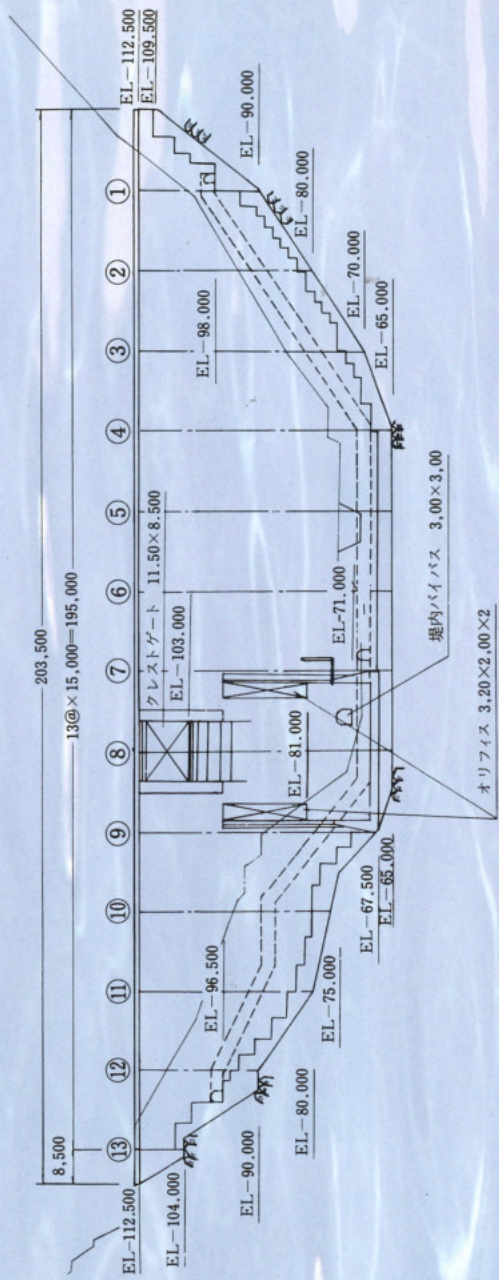
氾濫防止面積	280ha	田	65ha	鉄道	—
氾濫防止市町村名	大分県佐伯市	畑	170ha	国道	—
区域内人口	6,800人	その他	学校2、支出張所2	県道	1.2km
家屋	1,550戸		郵便局2、農協支所2	市町村道	46.5km

事業費

(金額:千円)

43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年	事業費
12,000	12,000	90,000	200,000	450,000	660,000	600,000	308,000	2,332,000
実施調査	"	建設						
ダム本体 昭和46年11月～昭和50年7月								

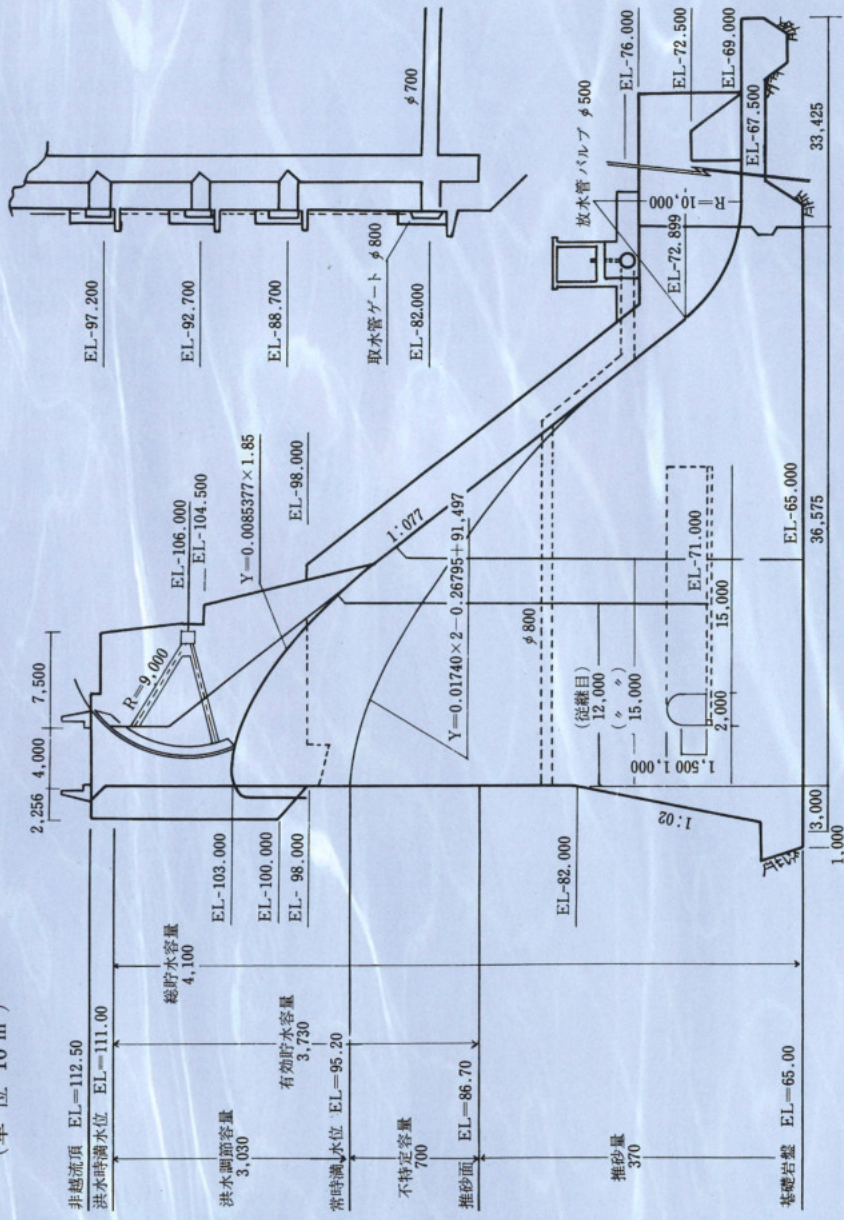
堤体下流面図



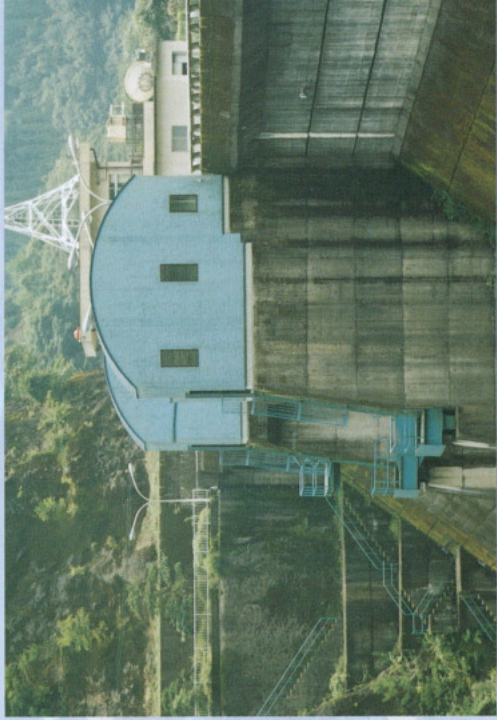
貯水池容量配分図

越流部

(単位 10³m³)



標準断面図



クレストゲート操作室

ダム管理設備



ダム監視カメラ



黒沢ダム上部



ダム放流による増水注意の看板



放流管・放水管バルブ施設